

当センターで経験した HbA1c の異常クロマトグラムについて

◎田路 夕海¹⁾、入汐 弘美¹⁾、春名 希依子¹⁾、堀内 駿矢¹⁾、佐藤 絵里香¹⁾、松村 郁子¹⁾、大窪 元子¹⁾、小倉 眞紀¹⁾
地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪急性期・総合医療センター¹⁾

【はじめに】HbA1c は、糖尿病の診断や血糖コントロールの指標として広く用いられている。当センターでは HPLC 法にて測定をしているが、異常ヘモグロビンなどが存在すると、クロマトグラムが異常を示し、正確な値を示さないことがある。異常ヘモグロビンとは遺伝子に変異があるヘモグロビンで、日本人の 3000 人に 1 人の割合で存在するといわれている。今回、当センターで経験した異常クロマトグラムの出現についてまとめ、若干の知見を得たので報告する。

【対象・方法】2014 年 2 月から 2018 年 7 月までの 4 年 5 か月間、当センターで HbA1c の依頼があった検体約 15 万件のうち、アークレイ社 HA-8181、HA-8180V (Fast モード) で異常クロマトグラムを示した検体 30 件について、さらに HA-8180V (Variant モード)、酵素法 (サンク HbA1c)、HA-8180T を加えて測定した。

【結果】異常クロマトグラムを示したのは 30 例 (男性 13 名 : 28~87 歳、女性 14 名 : 37~89 歳、タイ人 1 名を含む) で、その内訳は、ヘモグロビン Himeji が 1 例、異常ヘモグロビンの可能性があるもの 3 例 (ヘモグロビン Himeji、HbC、HbE)、高 HbF 血症が 7 例、何らかの修飾ヘモグロビンの可能性があるものが 3 例、原因不明が 16 例であった。

【まとめ】異常クロマトグラムは、4 年 5 か月の依頼検体で 30 例みられた。これにはさまざまな原因が考えられ、性能や測定方法を変更するなどの解析の必要性がある。また、今後外国人の来院の増加に伴い、異常クロマトグラムの増加も考えられるため、解析の結果によってはグリコアルブミンなどの他のマーカーで病態管理を勧めるのが望ましいと考える。

大阪急性期・総合医療センター 06-6692-1201(内線 5251)